



光

地球の誕生から現在まで、およそ46億年。

その長き時間を365日のカレンダーにしたなら、

地面ができたのは1月半ば。2月初旬に水、7月半ばに酸素。

そして、ひとが農耕を始めたのはおよそ1万年前で、

カレンダーでは大晦日の午後11時59分の直前。

地球にとって農耕の歴史はわずか1分少々の出発点です。

その365日間、太陽はずっと地球を照らしてきました。

ときには激しく、ときには隠れ、

地上の、そして新篠津の、命の成長を見守りながら。



風

目に見えないにもかかわらず、生命に不可欠な空気。

酸素を含む大気は、地球上に生物を満たしてくれました。

地球をくるむ大気圏は宇宙の危険な放射線を防御。

その中で、大気が循環し、ジェット気流が吹き、

気圧が天候を変えていることを人間は発見してきました。

新篠津の人々もまた、見えない空気に助けられています。

周辺の山々から平坦な土地に吹き降りる強風が、

畑の虫を吹き飛ばしてくれるので、

農薬の少ない安心な農作物づくりが可能になりました。



水

地球初の命を生んだのが水なら、命を左右するの水。

からだの50〜75%が水分で、胎児のときは羊水を守られ、

水分補給なしには5回と生きていけない人間は、

それでいて、恐ろしい津波や水害に翻弄されています。

地表の約7割は水ですが、ひとが飲んだり

農耕に利用できるのは、全体のたった0.01%です。

その貴重な命の水を新篠津に運ぶのは石狩川と篠津川。

かつて大暴れした石狩川は、いくつかの三日月湖を残し、

大地を潤しおいしいお米を産らせてくれています。



土

地球誕生以来、長い時間をかけてつくられてきた土。

岩が石に、小石が砂になり、それを微生物が溶かし、

微生物を食べる生物が現れて多様性を増し、

土壌はたくさん命が循環する驚異の世界になりました。

でも、人間はまだ土の中のことをよく知りません。

何気なく指でつまみ上げた土には、

1万種もの微生物が含まれているといわれますが、

その99%について人間はいまだに無知なのです。

だからこそ土は面白い。新篠津の土は日々改良中です。

Shinshinotsu Village

地球がくれた4つの力。

魅力あふれる「農」に新鮮さを与えるのは、
水の惑星だけが享受する4つの要素。
地球上のどこでも手に入れられるものだけれど、
おいしくて安全な農産物を育む、
新篠津の土と水と風と光はここにしかない財産です。

FOUR ENERGIES

